



(十文字学園女子大学メディアコミュニケーション学科の学生)

# FOR YOU

男女共同参画社会の実現に向けて

男女共同参画  
情報紙  
第47号

## ～若者が考える 男女共同参画社会 Part3～

男女共同参画社会をどう実現していくか、若い人たちにも関心を持ってもらいたいという願いを具体化するために、十文字学園女子大学メディアコミュニケーション学科石野榮一教授の協力を得て、同大学の学生に市内の職場で働く方々にインタビューをしていただきました。

**男性女性ではなく、やりがいのある仕事を**  
埼玉県南西部消防本部  
消防副士長  
中山翠さん



### ◆消防士を目指した理由

「人を助ける仕事が好きだったので、消防士になる前は別の仕事に就いており、仕事の傍らライフセービングも行って、何回も溺れた人を助けてきました。でも、最終的には救急隊にお願ひするしかないのです。そんな体験をする中で、最後まで人を助ける仕事に関わりたいと思い、消防士への転職を考え

皆さんは、消防士と聞くとどのようなイメージがありますか。男性の職業というイメージが強いのではないのでしょうか。消防士の統計では、全国約16万人の消防職員のうち、女性はずっと4千人程度です。そうした環境の中、新座・朝霞・志木・和光市を管轄地域とする埼玉県南西部消防本部で女性消防士として勤務する中山翠消防副士長にお話を伺いました。

### ◆職場の環境

今回の取材に当たり、私たちが一番関心を持っていた、消防士になって6年経過した今、男性が多い職場で中山さんがどのような思いで仕事をしているのかを伺いました。「特に男性だから、女性だからということはないです。例えば、現場で重い物を男性が運んだ方が効率は良いですね。大切なことは男女どっちでもなく、仕事を進める上で効率の良さを優先して行動することが大事だと考えています。また、筋力は男性と同じ回数こなしますよ。休日に個人的に鍛えたりもします。」と語ってくださいました。

### ◆消防士の仕事

中山さんが担当する災害現場での仕事は、男女問わず激務で危険を伴います。そのような現場で感じていることも伺いました。「火災現場で長時間の活動は正直しんどいです。メンタル的に辛いは、小さなお子さんや私と同じ世代の人が亡くなった場面などに遭遇したときですね。でも、火災現場などで感謝の言葉を掛けてもらった時は、「ああ自分も役に立っているんだ」と嬉しくなります。」と仰ってくださいました。

### ◆消防士になぜ感じたやりがい

女性消防士ならではのやりがいとは何でしょうか。今は消防車の乗務ですが、応援で救急車に乗ることもあります。傷病者や家族の方から「女性隊員がいてくれて安心した」と声を掛けてもらっていることもあります。と中山さんは語ります。女性であるからその利点が消防士という職業でいかされているの

### ◆最後に

平成6年の「女性労働基準規則一部改正で女性の深夜業務の制限が解除され、女性消防士も24時間体制で勤務ができるようになり、活躍する女性が増えています。これから消防士を目指す女性へのアドバイスをお願いします。少し考えた後、中山さんは消防士と言っても部署は様々で、男性女性ではなく、自分に合ったやりがいを持つ部署が見つければいいと思います。良いのではないかと。私もちろん体力も大切ですが、チームで過ごす時間が多いので、一番は人間関係を上手に結びこ

とです。」と語られました。  
(文・小野寺七海、小林聖名、サ、イ、穴戸理子)

**資格は同じ 自信を持つこと**  
医療法人社団 武蔵野会  
新座志木中央総合病院  
検査救急係長  
中島宏樹さん

病院などで男性看護師と接する機会が増えたと感じました。「男性看護師が増えたという印象は、逆に言えばそれだけ看護師という職業というイメージが強いということですね。男女共同参画社会の実現に向けて、チームにインタビューに取り組んだ私は、女性が多い職場で働く男性にお話を聞いてみたいと考えました。そこで医療法人社団武蔵野会新座志木中央総合

### ◆看護師として働く



看護師歴13年になる中島さんに女性が多い職場に抵抗感はないのかと聞きました。「確かに、働き始めた頃は女性の職場というイメージが強く、女性の患者さんに接するとき男性でいいのかなと思うことが多かったんです。しかし、仕事を積み重ねていく中で、辛そうだった患者さんの症状が回復して社会復帰ができる姿を見て、この仕事に就いて本当に良かったと思いました。やりがいを感じることに男性も女性も関係ないですね。」と語られました。

### ◆看護師を目指した理由

中島さんの支えになったのが、「持っている資格は一緒。患者さんをサポートする、役に立つことに男女は関係ない。自信を持ちなさい。」という言葉。中島さんが看護師になった時の頃の先輩や上司からの叱咤激励の言葉です。その言葉を大切にしながら仕事に向き合ってきました。「今まで仕事で、男性だからと困ったことはなかったです。」と語りました。

### ◆最後に

中島さんに看護師を目指している男性へのアドバイスをお願いします。「看護師を目指すことは、他の仕事を指すことと何ら変わりはないと思います。男性女性に関係ない、女性が多いから動きにくいということはないと思います。大切なのは自分のやりたいことを目指すということ。女性社会という先入観を持たずに、ぜひ目指してほしいです。」

現在、中島さんが勤務する職場は22人中男性が6人です。まだ3割にも届きません。それでも他の所属より男性看護師の割合は高く、何より学生時代と比べると、男性看護師は着実に増え、職責も高まっています。中島さんは、今年係長に昇進し、所属長になりました。「所属長として所属をまとめ、引っ張って行くことが今の目標です。」と語られました。

### ◆あどがき

「FOR YOU」には、真の男女共同参画社会実現に向けたメッセージを、全ての人に「FOR YOU」発信したいとの願いが込められています。年2回、春期と秋期に発行しています。

### ◆気づきが出発点

昨年に続き平成30年度前期「企画・インタビュー手法」という授業で取り組んだ学生のインタビュー記事を掲載する機会を頂きました。インタビューは、異性が多い職場で働く方々の姿や考えを知ることとを目的に、数年前に実社会に巣立つ学生に男女共同参画を考えてもらう機会にしてもらったことになりました。新座市男女共同参画推進プラザのご協力を得て、4人の方々にお話を伺うことができました。学生にとっていろいろな気づきがあったようで、有意義な機会となりました。この場をお借りしてご協力いただいた皆様に感謝を申し上げます。  
十文字学園女子大学教授・石野榮一

### ◆編集・問合せ

にいびほろとびらびら  
男女共同参画推進プラザ  
(0484-40-0000)  
石野榮一  
林紀花、リュウ・セイウン

